



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3097 号 2016.6.25 発行

新国立基本設計概要を公表 ユニバーサルデザイン拡充 産経新聞 2016年6月25日



新国立競技場の模型を見せながら説明する隈研吾氏 = 24日午後、東京都港区 (伴龍二撮影)

日本スポーツ振興センター(JSC)は24日、2020年東京五輪・パラリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場の基本設計概要を公表した。設計・施工を担う隈研吾氏や大成建設、梓設計の共同企業体(JV)が昨年12月に公表した技術提案をベースに、障害者向けのユニバーサルデザインをより多く反映させた。

設計概要によると、階数は地上5階(地下2階)で高さは49・2メートル。座席数は約6万8千席で将来約8万席への増設が可能な計画となっている。より詳細な実施設計を今年11月末までに終え、平成31年11月の完成に向け年内に着工する予定という。

隈氏は記者会見で、障害者団体からの要望を踏まえ、地下1階に集中していたトイレを地上1階にも配置したことを説明。「ユニバーサルデザインを徹底させたい」と話した。

障害者アート商品化プロジェクトでビーチサンダル3種限定販売 島根



産経新聞 2016年6月25日
優秀作品をデザインした谷口さん、小柴さん、茶畑さん(前列右から)

障害者アートの商品化を目指す島根県社会福祉協議会のプロジェクトで、県内の障害者がデザインしたビーチサンダルが完成し、県立しまね海洋館アクアス(浜田市)で披露された。シロイルカとイカ、タコの3種類あり、8月31日まで期間限定販売される。

プロジェクトでは、県内の福祉施設に所属する障害者が描いた絵をベースに、オリジナルのビーチサンダルを製造・販売する。同協議会とアクアス、ビーチサンダル製造「TSUKUMO」(東京)の共同事業で、3年目を迎えた。今回は4月にアクアスでデッサン会が開かれ、45点のデザインの応募があった。5月中旬～今月上旬、同館内で展示、入館者による人気投票をおこなった。

茶畑進さん(44)のシロイルカ=ワークくわの木江津事業所▽谷口淑一さん(25)のイカ=同▽小柴さゆりさん(41)のタコ=西部島根医療福祉センターがトップ3になり、これらを基に同社が商品化した。

同館で23日、表彰式があり、3人に表彰状や自らの作品が描かれたサンダルなどが贈られた。「シロイルカが自分で作ったリングをくぐる姿に感動して描いた」と茶畑さん。谷口さんは「イカがおいしそうに泳いでいたので…」、小柴さんは「頭の中でイメージして描

いた」などと、喜びを語った。

同協議会は「障害者の自信アップや収入増になり、障害者アートの価値向上にもつながる」とプロジェクトを評価。TSUKUMOは「今後も取り組みを続け、広島や関西、関東の百貨店に商品の販路を広げたい」と話していた。1足2千円で各デザインとも3サイズがある。同館の売店や県物産観光館（松江市）などで販売している。

避難所はトレーラーハウス 障害者、妊産婦の世帯向けに熊本・益城町に配備



産経新聞 2016年6月25日
トレーラーハウスで生活する浜本ゆう子さんと小学6年の長男

熊本地震で被害が集中した熊本県益城町にトレーラーハウスが配備され、障害者や妊産婦ら配慮を必要とする世帯向けの「福祉避難所」に活用されている。浴槽やトイレを備えたタイプもあり、被災者は「家族だけの空間がうれしい」と歓迎する。

福祉避難所は本来、介護施設などが使われ、内閣府によると、トレーラーハウスを使った福祉避難所は全国で初めて。

被災地で支援活動をしている一般社団法人「協働プラットフォーム」（東京）が提案した。福祉避難所の不足に悩んでいた町は、移動式で素早く設置できるトレーラーハウスを日本RV輸入協会から有料で借りた。

部屋の広さは20～35平方メートル。ロフト付きの部屋や、浴槽、トイレ、キッチンを備えたものもある。入居者の支援のため、保健師や看護師も巡回している。

自宅の壁が崩れたという益城町の主婦、浜本ゆう子さん（46）は、夫と小学6年の長男と入居する。「息子が避難所では落ち着かず、車中泊やテント泊を繰り返した。やっと屋内で生活ができてありがたい」と話した。

託す～被災地から 「上から目線福祉」違和感 西原村の難病男性



西日本新聞 2016年06月25日
避難所で運営スタッフと話す鈴木さん。「居心地が良すぎるとですよ、ここは」

しっくりこない。「福祉向上」「弱者支援」。定番のキャッチフレーズのような公約を、今回の参院選でも耳にする。上から目線というか、哀れみを含んでいるというか。

ハンチング帽に、鋭い眼光。熊本県西原村の自営業鈴木将司さん（42）は、手足の筋肉が衰える難病「シャルコー・マリー・トウス病」のため、6年前から車いすを使っている。地震で自宅は全壊した。飼い犬が

いるため、避難所近くで車中泊を続ける。

最近、16年間も控えていた酒を飲み始めた。ストレス解消のためではない。「ここには、飲み交わしたい人たちがいるから」。全国から集まる災害ボランティアなどと杯を傾け、親交を深める。

もともと政治や行政の世界で語られる「福祉」という言葉に違和感があった。避難所の村民や支援者は、そんな言葉を使わなくても自然と支え合う。それが現場から遠くなるほどずれていく。近く入居する仮設住宅は県が整備した。玄関先にスロープを付けてくれたのはいいが、車いすでするには傾斜がきつい。

4月の障害者差別解消法施行後、国会で気掛かりな“事件”が起きた。衆院が5月、全身の筋肉が徐々に動かなくなる筋萎縮性側索硬化症（ALS）の男性の参考人質疑出席を

「やりとりに時間がかかる」と拒んだ。批判を受けて参院は出席を認めたが、立法府が法の精神を踏みにじるとは。「制度をつくれれば、それで終わりのつもりなのかね」

震災後、村職員たちを見る目が変わった。四角四面で冷淡な窓口対応をしていた職員たちが、被災者の支援に奔走している。救いの手を必要としている人たちとじかに触れれば、傍観者ではいられないのだろう。信じられるのは「言葉より行動」。政治家にも同じことが言える。

【つくられた貧困】教育格差是正へ 国費を 阿部彩・首都大学東京教授



西日本新聞 2016年06月24日
あべ・あや 社会政策学者。首都大学東京子ども・若者貧困研究センター長。
著書に「子どもの貧困 - 日本の不公平を考える」など

日本人は子どもの教育費は親が出して当たり前と考えがちだが、幼稚園から大学まですべて無償の国もある。日本では高校が義務教育ではないことを海外で話すと「それで先進国なの」と驚かれるほどだ。

経済協力開発機構（OECD）の2013年報告によると、子ども1人にかかる教育費に占める公的資金の割合は日本は70.2%で、OECD平均（83.6%）より大幅に低い。比較可能な32カ国で日本より低いのは韓国とチリくらいだ。

家計の負担割合が大きいほど、親の所得格差が子どもの教育格差を生む「貧困の連鎖」に陥りやすい。これを断つには、（1）教育費の格差縮小（2）学力の格差縮小（3）学校生活の保障を進める政策に、もっと国家予算を投じるべきだ。教育は未来への投資だ。

もちろん財源には限りがあり、予算を貧困対策にどう使うかが重要となる。大学進学希望者を対象にした給付型奨学金制度の充実も重要だが、義務教育の底上げを優先すべきだと思う。

小中学校の教員を増やしたり習熟度別授業や補習を導入したりして、義務教育の質を向上させる手段を開発することがまず重要だ。

経済的に困窮する小中学生の家庭に学用品費などを助成する就学援助制度は、所得制限や援助費目に自治体間で大きな格差がある。完全給食が未導入の中学校もまだ各地にある。保護者の経済的な負担を減らすためにこれらも改善し、教材を買わずに済むよう、備品化を進めることも必要だ。

学校生活を保障する観点では、高校中退を防ぐ対策が非常に重要となる。高校中退は貧困層の子どもに多く、1年生の1学期に集中する。彼らは16歳という若さで教育制度から離れ労働市場に送り出されている。

高校の3年間は、学力はもちろんだが、労働搾取や犯罪、若年妊娠などから子どもを守る意味も大きい。将来の就労につながる基礎的能力を養う場を保障することが大切だ。

また、世界の貧困研究者の多くが就学前支援の重要性を指摘している。家庭環境が子どもの成長に大きく影響し、貧困が後の人生に一番大きく響くのが乳幼児期だからだ。この点、日本には保育所がある。ひとり親家庭の子は保育所に通っているケースが多く、福祉行政の観点で貧困対策の“最初の砦（とりで）”にすべきだ。保育士の処遇改善で保育の質を高めることに加え、親を支援するソーシャルワーカーの役割を果たす人材も配置できれば効果は大きい。

保育所から小中学校、高等教育へと貧困対策を切れ目なくつなぐ必要がある。

▼教育と格差 経済協力開発機構（OECD）の調査によると、2012年の加盟各国の国内総生産（GDP）に占める教育機関への公的支出の割合は、日本は3.5%で比較可能な32カ国中、スロバキアと並び最下位だった。

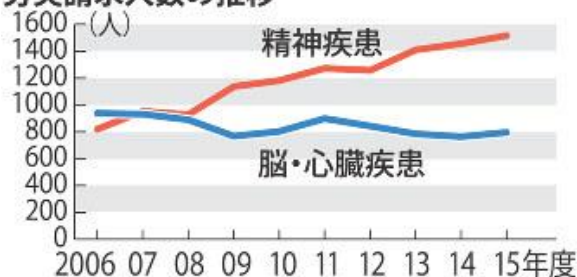
生活保護を受けている家庭の子どもの高校中退率（12年度）は5.3%で、一般世帯

(1.5%)の3.5倍。政府が14年にまとめた子どもの貧困大綱は、生活保護世帯の高校進学率の引き上げとともに、高校中退率の改善を掲げている。

就学援助制度を巡っては、生活が苦しい「準要保護世帯」の認定基準所得に、九州の市町村間で最大3倍超の格差があることが、西日本新聞の調査で判明。4人家族の課税所得が383万円程度で受給できる町がある一方、120万円以下でなければ受給できない町もあった。援助費目も市町村によって大きな差がある。

労災 うつ病などの精神疾患で申請1515人 過去最多 毎日新聞 2016年6月24日 長時間労働やパワハラ原因 15年度の厚労省まとめ

労災請求人数の推移



長時間労働やパワーハラスメントが原因でうつ病などの精神疾患を発症した労働災害の請求が1515人（前年度比59人増）と初めて1500人を超え、過去最多となったことが24日、厚生労働省が公表した2015年度の労災状況まとめで明らかになった。うち472人（同25人減）が労災認定された。脳・心疾患などの労災申請も、前年度から増加するなど高止まりしている。

精神疾患の請求のうち、自殺（未遂を含む）が199人（同14人減）で、過去2番目に多い93人（同6人減）が認定された。請求が多い業種は「社会保険・社会福祉・介護」が157人（同17人増）、次いで「医療業」が96人。人手不足もあり、対人関係の業界でハラスメントや過重労働が深刻化していることをうかがわせる。

脳・心臓疾患の請求は795人（同32人増）で、認定は251人（同26人減）。請求が多い業種は「道路貨物運送業」が133人（同13人増）、次いで「総合工事業」が48人。「道路旅客運送業」も30人にのぼり、運転労働者の業務の過酷さが浮かんた。

精神疾患で請求した人を年代別にみると、50代が287人（同70人増）と大幅増加、40代が最多の459人（同5人増）と、中高年の増加が目立った。30代は419人で高止まり、20代は281人で16人減少した。認定の原因では「心理的な負荷が極度に高い出来事」が87人で最多、「仕事の内容や量の変化」が75人、パワハラや暴行が60人だった。

14年に過労死等防止対策推進法（過労死防止法）が制定され、過労死の啓発や長時間労働縮減の取り組みが始まっている。過労死防止学会で活動する森岡孝二関西大名誉教授は「防止法の施行で過労死への認識が高まり、請求が増えている側面もあると思うが、まだまだ長時間労働がはびこっている。労働時間の上限規制や仕事と仕事の間にある一定の時間を空けるインターバル規制が求められる」と話している。【東海林智】

遺伝子検査サービスの信頼性を探る 大庭牧子 朝日新聞 2016年6月25日

唾液（だえき）などを業者に送るだけで病気のリスクや体質がわかる――。医師や病院を介さない遺伝子検査サービスが広がっています。ダイレクト・トゥー・コンシューマー（DTC、消費者直接販売型）と呼ばれるそんな検査の正確さや信頼性はどのようなのでしょうか。記者が体験しながら、現状や課題を探りました。

記者がインターネットで申し込んだのはジェネシスヘルスケア社の「ジーンライフ ジェネシス」。360項目2万9800円（税別）のところ2万円引きのキャンペーン中だった。郵便で届いたキットで唾液を採り、同意書と一緒に返送。1カ月後、検査終了の通知メールが。閲覧サイトにパスワードを入れると結果が表示された。

ドキドキしながら結果を見る。疾患リスクが、平均と比べ何倍高いか数字で示されている。たとえば記者が悩む腰痛は1・61倍。軟骨形成にかかわるCILPという遺伝子が「腰部椎間板（ついかんばん）症の発症リスクが高い」型という。項目によっては複数の遺伝子を検査した結果が記載されている。

体質はほとんどが3段階で示されている。「アルコールに強い」は当たっているが、「髪の毛の太さ＝やや太い」や「最低血圧＝高い」に首をかしげた。「失敗からの学習能力＝高い」には癒やされたが、そこまでわかるのか？

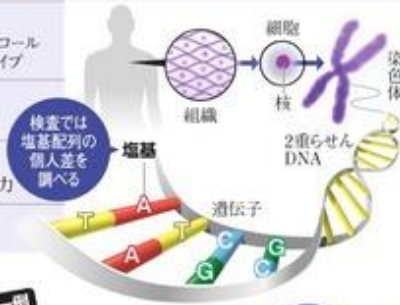
遺伝子検査

■病気のリスクなどがわかる遺伝子検査を受けたいですか？
2014年8月 朝日新聞全国世論調査



■消費者向けの検査(DTC)

調べられる検査項目	調べられない検査項目
<ul style="list-style-type: none"> ●一般的な病気にかかるリスク (例)がん、心筋梗塞、脳卒中、高血圧症、2型糖尿病、リウマチ、骨粗しょう症、緑内障、花粉症、歯周病 ●体質の傾向 (例)肥満タイプ、BMI、体脂肪率、アルコール代謝、日焼け、長寿、肌のタイプ、髪の色 ●性格の傾向 (例)好奇心、ギャンブル依存、忍耐力 ●運動、学習能力 (例)計算速度、言語能力、記憶力、筋力 ●親子、血縁鑑定 	<ul style="list-style-type: none"> ●単一遺伝子疾患の診断 ●出生前診断 など



■検査の流れ

- 1 ネットなどで申し込み
- 2 検査キットが届く
- 3 唾液を採取して投函
- 4 結果が届く
サイト閲覧
または文書が郵送される

■結果の一例



■商品例

会社名	商品名	検査項目、数	定価(税込み)
ジェネシスヘルスケア	GeneLife Genesis	疾患リスク 148 体質、身体的特徴 212	3万2184円
DeNAライフサイエンス	マイコードヘルスケア	病気の遺伝的傾向 150 体質の遺伝的傾向 130	3万2184円
ヤフー	Health Data Lab	病気発症リスク 約110 体質 約180	3万2184円
ジーンクエスト	ジーンクエスト ALL	健康リスク 約100 体質 約190 祖先解析	4万9800円

グラフィック・下村 直樹

米国の女優もいましたが……。

「米国で、3社のDTCを同じ人が受けたら、共通して根拠とした遺伝子はわずか7%だったという調査があります」と、小杉眞司・京都大大学院教授（医療倫理学・遺伝医療学）。米国の後を追う国内のDTCも大差はなく社によるばらつきが大きいとみる。

「生命の設計図」DNAを文章にたとえると、文字にあたる4種類の塩基が約30億字連なる全文が「ゲノム」、うち働きが解明された領域を「遺伝子」と呼ぶ。ゲノムの大半は万人共通だが、ごく一部、人により異なるタイプ（多型）がある。DTCは遺伝子の多型を調べ、病気や体質との関連を示した論文を根拠にリスクを判定する。国内のあるDTCは、読み取った約30万個の多型の中から約500個を用いて300項目を判定する。「関連性が科学的に確立していれば、検査会社が根拠とする遺伝子は、かなりの程度共通になるはず」と小杉教授。

ほかにも問題はある。判定の根拠とされる論文は簡単に言うと、ある病気の患者と一般人の集団の、多型の割合を比べたもの。「ある多型を持つ人が将来発症するかどうかとは違う。また、集団どうしの統計的な数字が個人の予測として役立つかも疑問です」

しかし、遺伝子検査をして乳がんになる前に乳房を切除した米

「不遇な成育歴」影響指摘 背景に「虐待の連鎖」？ 筑後事件地裁判決

西日本新聞 2016年06月25日

「不遇な成育歴が影響した可能性は否めない」。リサイクルショップを舞台に従業員らへ

執拗（しつよう）に繰り返された中尾知佐被告の暴力について、福岡地裁判決はそう指摘した。知佐被告は幼少期、父から体罰を伴う厳しいしつけを受けていたといい、識者は事件の背景に「虐待の連鎖」があった可能性を指摘する。

公判での証言や関係者の話によると、知佐被告は瀬戸内海に浮かぶ愛媛県内の島で、9人きょうだいの最年長として育った。病弱だった母に代わって家事は知佐被告が担当。「箸の上げ下げ」などわずかな理由で父から暴行され、服を焼かれたり、寒い時期に家の外に出されたこともあった。母は一度も助けてくれなかったといい、そんな環境に嫌気がさした知佐被告は高校を中退し、島を出た。

その後、福岡で伸也被告と出会い結婚。リサイクルショップを開店すると、ミスをした従業員に体罰を科すルールを作り上げた。体罰に関する父親の影響について、裁判の被告人質問で『「ちゃんとしなさい』という意味で父がやっていたことは間違っていない。げんこつやびんたなら（従業員にしても）許されると思っていた』と話した。

知佐被告の意向に沿った虐待は、次第にエスカレート。元従業員らが衰弱していく様子を認識しながら、体罰やしつけとしての暴力は止まらなかった。

NPO法人児童虐待防止協会の津崎哲郎理事長は「知佐被告は自分と父を同一化することでしか、他者との関係を築けなかったんだろう。モデルになる大人が他にいれば、虐待の連鎖は止められたかもしれない」と指摘する。

集団心理が暴力を加速させたとの分析もあり、西田公昭立正大教授（社会心理学）は「夫婦はお互いが止めないことを理由に、よく考えずに漫然と暴行を続けたのではないかと述べた。

地震時に障害者の3割「避難できず」 別府 加藤勝利 朝日新聞 2016年6月25日

大分県別府市で震度6弱を観測した4月16日前後、市内に住む障害者の避難状況について、当事者101人に聞き取った調査結果を、市などが公表した。「避難できなかった」と答えた障害者が約3割にのぼった。

別府市と支援者らの団体「福祉フォーラムin別府（べっき）・速見実行委員会」、県市町村社協職員連絡協議会が5月10日から4日間かけて、同市亀川地区の20～80歳代の身体、知的・精神の各障害者に聞き取った。半数が65歳以上で、2割以上が一人暮らしだった。

集計によると、避難したのは24人。避難しなかったのは75人だった。75人のうち、24人は避難の「必要性を感じない」と答えたものの、31人は「避難できなかった」と回答。理由について聞き取りに、「寝たきりや夫婦とも障害があり、移動は無理」「視覚の障害で動けなかった」と話したという。

残る20人は「その他」「わからない」だった。

一方、避難した24人に行き先を聞くと、近くの自主避難所8人、親や親類の家4人などだった。避難方法は11人が徒歩だった。

誰と避難したかについては、家族とが20人、地域の人とが4人などだった。

周囲との関係についても聞き、つながり先として隣近所が64人、民生委員が17人などだった。「特につながりなし」と22人が回答したが、つながりの必要性を尋ねると、74人が「必要を感じる」と答えた。

災害時に支援の必要な高齢者や障害者ら災害時要援護者は市内に約6千人。調査した担当者は「災害時に心身の不自由な在宅の障害者や高齢者の手助けを、近所のみなさんをお願いしたい。それには、日常から顔の見えるつながりが肝心。地域ぐるみで支える仕組みを作りたい」と話す。

人間や動物の痛覚にかかわる多数の遺伝子を見つけたと、筑波大の研究チームが発表した。

新たな鎮痛薬の開発などにつながる可能性があるという。23日の米科学誌「セル・リポーツ」（電子版）に論文が掲載された。

発表によると、チームはキイロシヨウジョウバエの幼虫から、痛覚にかかわる神経細胞と、それ以外の神経細胞を取り出して遺伝子の働き方を比較。痛覚神経で強く働いている275個の遺伝子を特定した。さらに、これらの遺伝子を一つ一つ働かなくして、痛みの刺激に対して幼虫の反応がどう変わるかを調べた。

その結果、36個の遺伝子が痛覚と関係していると判明。うち14個は痛覚を鋭敏にし、残る22個は鈍くする働きを持つことも分かった。また、この36個の遺伝子のうち、20個は人間を含む哺乳類にも存在しており、うち18個は、これまで痛覚とのかかわりは知られていなかったという。

「バリアフリー観光」解説 福島で全国フォーラム、理解を深める



福島民友 2016年06月25日

バリアフリー観光の可能性について指摘する中村理事長

障害者や高齢者に優しい観光の推進を目指そうと「第6回バリアフリー観光推進全国フォーラムふくしま大会」は24日、福島市で始まった。

「ふくしまの観光をバリアフリーで再生する！」をテーマに、参加者が基調講演などを通して障害者でも安心して観光できる設備の構築などについて理解を深めた。

NPO法人日本バリアフリー観光推進機構の主催、福島民友新聞社などの後援。基調講演やバリアフリー観光の先進事例発表が行われたほか、電動車いすや高齢者、子どもでも不自由なく扱える茶わんなどが展示された。展示会は25日も開かれる。このうち、基調講演では同機構の中村元理事長が「集客10倍！バリアフリー観光はここまで来た」と題してバリアフリー観光の現状について説明。中村理事長は「(観光において)障害者が一般の団体に混ざり、コミュニティーを形成している。また、団体に高齢者が一人入ると観光の選択肢も変わる」と指摘。「健常者も障害者も一緒に楽しめる環境をつくるのが集客につながっていく」とバリアフリー観光市場の可能性を示した。

小樽で113年、工藤書店30日で閉店 伊藤整も通った文化拠点



北海道新聞 2016年6月25日

店内に並んだ新刊本を前に、思い出を語る店主の工藤美喜さん

【小樽】新刊本や教科書などを扱い、多くの小樽市民に親まれてきた花園1の工藤書店が、30日で113年の歴史に幕を閉じる。かつては小樽ゆかりの作家伊藤整らが入り出すなど、文化の発信拠点として地域を支える存在でもあった。

4代目店主で2004年に他界した工藤祐司さんが小樽潮陵高の同窓誌に残した文書や、妻で5代目の美喜さん(84)によると、同店は1903年(明治36年)に住吉町に開業。当初は小樽新聞(現北海道新聞)の校正作業も手伝っていた。

14年(大正3年)、花園の国道沿いに移転した後はレコードや楽器、美術用品なども扱

うようになった。当時は小樽の商店の多くが道内向けの中間卸問屋の役割を担っており、同店もトラックで道内の巡回販売を手がけていたという。

このころ、店の2階を文学青年らに開放し、伊藤整や歌人小田観堂（かんけい）らが入りしていた。伊藤は作品内に同店を实名で登場させたこともある。「読書会などが開かれ、活発な議論が交わされていたようですよ」と工藤さん。小樽の文化人がこの店から育っていった。

昭和金融恐慌の影響で33年（昭和8年）に事業を縮小し、現在地に移った。その後も市内の学校教科書を扱ったり、個人宅や喫茶店、福祉施設などにきめ細かく本や雑誌を届けたりして市民に親しまれた。

だが、昨年秋ごろから工藤さんは脊柱管狭窄（きょうさく）症を患い、1日8千歩近く歩いていた配達業務もままならなくなった。同店の決算期が6月だったことから閉店を決めたという。工藤さんは「こんなにも長い間、常連さんたちに愛され、感謝しかありません」と話している。営業時間は午前10時～午後7時。日曜定休。（石井慧）

特養「あす〜る吹田」ロボットを導入

大阪日日新聞 2016年6月25日



歌と踊りを披露するペッパーくん

新しい仲間の登場に歓喜！！

「ミュージックスタート？」の合図。ピンクレディーが歌っていた「ペッパー警部」のイントロが勢いよく流れる。メロディーに合わせて手拍子する観客。そこに堂々とした面持ちで現れた一人の少年。周囲の視線に緊張することなくしなやかに歌とダンスを披露している。疲れを知らず踊り続ける人物の正体は、なんとロボット…。

世にも不思議なショーが行われたのは、平成18年に開設した特別養護老人ホーム「あす〜る吹田」。現在、約160人が入居、30人が自宅から通い介護を受けている。施設内には、多目的ホールをはじめ喫茶ラウンジ、理容室、屋上菜園が完備されており、グレードの高いサービスが話題を呼ん

でいる。

和やかな空気が漂うフロアに今年4月、新しい仲間がやってきた。名前は「Pepper for Biz」（通称・ペッパーくん、身長1210ミリ、重量29キロ）。最近、街中の携帯ショップでよく見かける白いロボットの法人向けモデルである。充実したアプリケーションにより受け付けやプレゼンテーションなどさまざまな業務を任せる事ができる優れ者。例を見ない新人の登場に期待が高まる。

事務長代理の下村信元さんにお話を伺った。「これまでレクリエーションには、職員を3人配置しておりました。人手が不足し悩んでいたところペッパーくんが来てくれました。現在、施設内を定期的に巡回し歌や踊りのパフォーマンス、クイズ、カウンセリングと多岐にわたり大活躍です。孫のようでかわいいと評判です」。

現在、4歳ぐらいの知能だがスタッフによるプログラミングで10歳まで向上するとの事。言葉を覚え簡単な会話ができる日も近い。人々の優しさに触れ、今後どのように成長していくのか楽しみである。

■特別養護老人ホーム「あす〜る吹田」 吹田市岸部中2丁目7番12号 <http://azul.or.jp/>



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行